

2016年

第2回JAFラリー競技における救急活動訓練

(2016年10月1日)



JAF

1 救急活動訓練概要

- (1) 目 的：ラリー競技でのレスキューマーシャル・クルーのスキルアップ
- (2) 実施日：2016年10月1日（日）中部・近畿ラリー選手権
第32回 シロキヤラリー in 豊根
- (3) 場 所：H Q前（愛知県北設楽郡豊根村・設楽町地内）
- (4) 運 営：全日本選手権第1戦組織委員会（グラベルモータースポーツクラブ）
- (5) 講 師：講師4名
- (6) 受講対象者：中部・近畿ラリー選手権横手ラリー参加クルー
- (7) 訓練車両：スバルインプレッサWRX（GC8）、Green、公認ロールケージ、
6点安全ベルト、サーキットブレーカー
- (8) 訓練内容：FIA国際競技規則付則H項およびFIA INSTITUTEセミナーに基づく
負傷クルー救出訓練

2 プログラム

- **：00～ 開会式
訓練内容説明（医師）
- **：15～ 訓練
 - (1) 講師による模範訓練
 - (2) 受講者による訓練
- **：00～ 閉会式（予定）

3 救出活動概論

事故現場での救出活動は、負傷者の病院前救護の経験を積んだ医師を含む6名で構成された救出チームで行われ、医師によって負傷者の症状確認と指示により救出活動が行なわれます。

なお、クルーが負傷して自力で車外に脱出出来ず、且つ火災等によりクルーの生命に危険が差し迫った例外的な状況においては医師の立会いを得ずに救出することとなります。

4 訓練方法

クルーが負傷して自力で車外に脱出出来ず、且つ火災等によりクルーの生命に危険が差し迫った状況を想定して2通りの訓練を行います。

- (1) 負傷クルーを引き出す際の身体保持方法の習得
- (2) 負傷クルーを車外に引き出す方法の習得

5 救出訓練手順

(1) 負傷クルーを引き出す際の身体保持方法の習得

- ①負傷クルーの左（右）脇下から救助クルーの左（右）腕を通してドライバーの下顎を固定。
- ②負傷クルーの右（左）脇下から救助クルーの右（左）腕を通してドライバーの右手首を掴む。
- ③上記①と②の状態から、負傷クルーの背中を救助クルーの胸に引き付けて身体を保持する。
- ④上記③の状態から、ゆっくりと負傷クルーを引き上げる床に下ろす。



(2) 負傷クルーを車外に引き出す方法の習得

- ①サーキットブレーカー遮断
- ②ドア全開
- ③声を掛けて意識の有無等確認
- ④インターコム取り外し
- ⑤安全ベルト取り外し（ヘルメット、HANSは装着状態）
- ⑥負傷クルーの左（右）脇下から救助クルーの左（右）腕を通してドライバーの下顎を固定。
- ⑦負傷クルーの右（左）脇下から救助クルーの右（左）腕を通してドライバーの右手首を掴む。



⑧上記⑥と⑦の状態から、負傷クルーの背中を救助クルーの胸に密着させる状態をとる。



⑨上記⑧の状態から、ゆっくりと負傷クルーを車外に引き出し地面に下ろす。

以上